

太田市いじめ防止基本方針

目指す姿 子どもが安心して、安全に楽しく学べる学校
子どもが自分の力を思う存分発揮できる学校
保護者や地域から信頼される学校



平成30年 3月

太田市

目次

I 「太田市いじめ防止基本方針」策定の意義及び基本的な方向

- 1 「太田市いじめ防止基本方針」策定の意義
- 2 いじめ防止等の対策に関する基本的な考え
- 3 いじめ防止等のための組織
- 4 その他いじめ防止等のための対策に関する重要事項

II 基本理念

- 1 いじめに対する基本認識
- 2 未然防止に向けて
- 3 早期発見に向けて
- 4 解消に向けて

III 学校支援のための取組

- 1 目的
- 2 取組

IV 家庭や地域との連携

- 1 目的
- 2 取組

V 関係部局及び関係機関との連携

- 1 目的
- 2 取組

VI インターネットを通じて行われるいじめの対応

- 1 目的
- 2 取組

VII 重大事態への対応

- 1 目的
- 2 取組

VIII 取組の評価

- 1 目的
- 2 取組

Ⅰ 「太田市いじめ防止基本方針」策定の意義及び基本的な方向

1 「太田市いじめ防止基本方針」策定の意義

学校は、児童生徒が安心して学校生活を送り、本来持っている力を十分に発揮する場ではなければならない。しかし、いじめは、児童生徒の心身の健全な発達に重大な影響を及ぼし、安心して自分の力を発揮できないばかりか、命に関わる重大な事態を引き起こしかねない問題となる。また、最近では、インターネットを介した「ネット上のいじめ」等が発生し、その対処に大変苦慮している現状である。

いじめの問題は、学校だけで解決できるものではない。学校や家庭、地域及び関係機関が緊密に連携し、その解決に向けて組織的に取り組む必要がある。そして、何より、児童生徒が自らいじめのない学校をつくらうとする強い意識を持ち、それを実践に結びつける自主的な態度を持つことが肝要である。

そこで、太田市は、いじめ防止等の対策を総合的、効果的に推進するため、国の「いじめ防止対策推進法」及び「いじめ防止のための基本的な方針」、県の「群馬県いじめ防止基本方針」を受け、「太田市いじめ防止基本方針」を策定する。

2 いじめ防止等の対策に関する基本的な考え

(1) いじめは、全ての児童生徒に関係する問題である。全ての児童生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に思う存分取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめをなくすこと。

※いじめは一人一人の問題。子どもにとって安心、安全な学校をみんなで作る。

(2) いじめは、いじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されざる行為であるということについて、全ての児童生徒が十分に理解できるようにすること。

※いじめをしない、させない、許さない。いじめの防止の大切さが分かる子どもを育てる。

(3) いじめを受けた児童生徒の生命及び心身を保護することが特に重要であり、そのことを認識しつつ、市、学校、地域住民、家庭その他関係機関が連携し、いじめの問題を克服すること。

※いじめられた子どもを何が何でも守り抜く。そのために関係する大人の英知を結集する。

3 いじめ防止等のための組織

「いじめ問題対策連絡会議」の設置については、「太田市青少年問題協議会」をもってこれに充てる。また、太田市教育委員会の附属機関として「太田市いじめ問題専門委員会」(法第30条第3項)を設置する。

4 その他いじめ防止等のための対策に関する重要事項

太田市は、策定から3年経過を目途として「太田市いじめ防止基本方針」の見直しを行い、必要と認めるときは、その結果に基づいて必要な措置を講じる。

II 基本理念

1 いじめに対する基本認識

－いじめの定義－

児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものとする。（いじめ防止対策推進法より）

いじめは、全ての児童生徒に関わる問題である。また、いじめは人権侵害であり、絶対に許されない行為である。いじめを受けた児童生徒を守り通すとともに、いじめに関係した児童生徒全てが、教育的配慮のもと、人格成長ができるように毅然とした態度で取り組む。

2 未然防止に向けて

全ての児童生徒を対象に、いじめに向かわせないための未然防止対策を講じる。児童生徒が、コミュニケーション能力を身につけ、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような学級づくり、集団づくりを行う。

加えて、お互いを認め合える人間関係・学校風土・学級風土をつくる。そのためにいじめを起こさせない児童生徒の自主的、主体的な取組を支援する。

3 早期発見に向けて

いじめは、大人が気付きにくく、いじめと判断しにくい場合も多いことを認識し、些細な兆候であっても、いじめではないかと疑いを持つ姿勢が大切である。早期発見のために日頃から、児童生徒の見守りや信頼関係の構築に努める。また、児童生徒がいじめを訴えやすい体制を整え、いじめの実態把握に取り組む。さらに、けんかやふざけ合いであっても、児童生徒の被害性に着目し、いじめに該当するかどうかを判断する。

4 解消に向けて

いじめ問題が生じたときには、詳細な事実確認に基づき、早期に適切な組織的対応を行い、関係する児童生徒や保護者が納得できる解消を目指す。また、必要に応じて関係機関、専門機関との連携のもとで解決に取り組む。さらに、単に謝罪をもって安易に解消と判断せず、いじめに係る行為が止んでいる状態が相当の期間(少なくとも3ヶ月)継続し、被害者がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められた場合に解消とする。

Ⅲ 学校支援のための取組

1 目的

太田市は、いじめ問題の未然防止、早期発見、早期解消に向けた学校の組織的取組を積極的に支援する。

2 取組

(1) 相談体制

①太田市教育研究所相談窓口やヤングテレホン等の相談体制を充実させる。

②学校に、「おおたん教育支援隊」「悩みごと相談員」「研究所付相談員」「バイリンガル教員」「日本語指導助手」「介助員」「不登校専門員」を配置し、児童生徒が悩みごと等を相談しやすい体制を整える。また、県から配置されたスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも活用する。

(2) 実態把握

教職員が児童生徒が示す変化や危険信号を見逃さないアンテナを高く持つとともに、毎月実施するアンケートを効果的に指導に生かせるよう、研修会等を随時開催する。その際には、教職員向け、保護者向けのチェックリスト等を活用する。(平成24年送付済)
さらに「いじめ一報制」により、組織としていじめを把握し、早期対応に努める。

(3) いじめ問題に対する学校評価及び人事評価制度の適切な運用

いじめの有無や発生件数等、結果のみを評価するのではなく、日頃の児童生徒理解、未然防止や早期発見、いじめが発生した際の迅速かつ適切な対応、組織的な取組等を評価するよう管理職に周知徹底を図る。(定例校長会・教頭会、定期及び臨時の学校訪問等)

(4) 教職員の取組支援

①教職員のいじめ問題に関する資質を向上させるため、非行対策委員会、不登校対策委員会(年3回実施)を開催し、いじめに関する資料を活用したり、講師を招いて研修会を実施したりする。また、現在問題となっている事例やその対処法を紹介したり、太田警察署生活安全課と連携し、その対応についての研修会を開催したりする。特にインターネットを通じて行われるいじめについても効果的な防止策、対応策を講じることができるよう研修の機会を設ける。

②2年目の教職員を対象に、年3回の研修会を開催する。その中で特に「教育相談初級技術認定」取得の目標を掲げ、児童生徒理解のための研修を積む。また、その中でいじめ事案も例に挙げ、指導方法を紹介する。

③教職員が、児童生徒と向き合い、いじめ防止等に十分に取り組める環境をつくるため、現在導入されている太田市校務支援システムの更なる活用促進を図る。

(5) 報告を受けた場合の対応

いじめ一報により、報告を受けた際には、学校に対して支援を行い、適切な措置を講じることを指示する。

(6) 児童生徒の自主的な取組支援

①児童会や生徒会が主体となって活動する場の設定

児童会や生徒会において、児童生徒が自発的、自主的にいじめについて考え、自ら改善に向けた活動が進められるよう学校を支援する。また、先進的な取組をしている学校を積極的に紹介する。(太田市いじめ防止こども会議)

②いじめ防止に向けた「行動目標」の具現化

平成 25 年度群馬県いじめ防止サミットで策定した「いじめ防止宣言」を受け、太田市いじめ防止こども会議で策定した「行動目標」の具現化を図る。

③「いじめ防止ポスター」の配布

年 2 回、太田市教育研究所より、「いじめ防止ポスター」を各学校に配布し、いじめ防止についての意識を喚起する。また、そのポスターを題材に学級活動での話し合い活動等の取組を依頼する。さらに、県のいじめ防止月間を受けた学習が展開できるようにする。

IV 家庭や地域との連携

1 目的

保護者は、子どもの教育の第一義的責任を有する。したがって、太田市はその保護する子どもがいじめを行わないよう、またいじめを受けた場合、いじめからその子を保護できるよう、家庭の取組を支援する。また、市や学校が行ういじめ防止の取組に対しても協力をお願いする。

地域へは、学校内外のいじめについて子どもを温かく見守る体制づくりを依頼する。

2 取組

(1) 相談窓口の周知

児童生徒や保護者が悩みを相談しやすいように、「太田市教育研究所」等の相談窓口の周知を行う。

(2) いじめ問題に理解を深めるための広報啓発活動

いじめ防止ポスターを行政センターや公民館、児童館などにも配布し、保護者や地域と協働していじめ問題の早期発見、早期解消に努めるとともにいじめ問題に対する啓発を図る。また、市及び学校のいじめ対策事業について地域や家庭への周知に努める。

(3) 学校・家庭・地域との連携、協働体制の構築

社会全体で子どもを見守り育むために、PTAはもちろん、学校支援センターや児童クラブ、児童館等との連携を強める。また、「太田市いじめ防止こども会議」にPTAが参加し、大人と子供双方の視点でいじめ問題について考える機会を設ける。

(4) 地域ぐるみの対策推進の強化

地域の健全育成団体等との連携、協議の場を設けるようにする。

V 関係部局及び関係機関との連携

1 目的

太田市は、いじめの内容に応じて、関係部局及び関係機関との連携を図り、未然防止と迅速な解消を目指す。

2 取組

(1) 太田警察署生活安全課との連携

①学校警察連絡協議会での情報交換・共有

定期的な会議を開催し、児童生徒の状況や対策について協議する。

②生徒指導主任・生徒指導主事との連携

非行対策委員会に生活安全課相談員、スクールサポーターを招き、情報を共有するとともに対応について指導助言を得る。

③スクールサポーターとの連携

必要に応じ、スクールサポーターの学校への派遣を警察に依頼し、問題解決に向けた協力を得る。

④児童生徒を対象とした講習会の実施

非行防止教室や情報モラルに関する講習会の開催を促し、相談員やスクールサポーター等を講師に迎え、ネット上のいじめ防止の講演を開催するための支援を行う。

(2) 児童相談所等との連携

学校は、児童相談所にいつでも相談しやすいような体制づくりに努める。必要に応じて、太田市役所こども課とも連携を図る。

(3) 法務局との連携

法務局が設置するいじめに関する相談窓口の周知や人権擁護委員と連携した啓発活動を行う。

(4) いじめ防止活動に関わる連携

校長会、教頭会、PTA連合会、青少年育成推進員連絡協議会、子ども育成団体連絡協議会、スポーツ少年団等と連携して、いじめ防止活動を推進する。

VI インターネットを通じて行われるいじめの対応

1 目的

太田市は、インターネットを通じて行われるいじめを防止し、効果的な対処ができるようにする。

2 取組

(1) 携帯電話・スマートフォン等の使用について

携帯電話については、小・中学生の保護者に対して、教育長緊急アピール「携帯電話を持たせないようにしましょう」の主旨を引き続き伝えていく。やむを得ず持たせる場合は、保護者の責任において使用させるとともにフィルタリングの設定をお願いする。スマートフォン等及びインターネットの使用については、家庭での使用のルールを決めるなど、子どもがスマートフォン等やインターネットに関わるいじめに巻き込まれないように保護者に協力をお願いする。

(2) 情報モラル教育の推進

インターネットを通じて行われるいじめについては、大人の目に触れにくく、発見しにくいいため、児童生徒一人一人がしっかりした情報モラルを身につけることが肝要である。そのために、情報モラル教育の推進に努める。また、警察や法務局等の関係機関との連携を図る。さらに児童生徒が、インターネットに関する危険性を十分理解できるよう保護者やPTA連合会と連携する。

(3) ネット上のいじめへの対応

ネット上の不適切な書き込みについては、被害の拡大を避けるため、直ちに削除する措置をとる。警察や法務局の協力を求める。

(4) 相談体制

児童生徒が悩みを抱え込まないように、メールでの相談窓口も含めて相談しやすい体制づくりに努める。

VII 重大事態への対応

1 目的

太田市は、重大事態への対処及び同様の事態の発生の防止を図る。

2 取組

(1) 太田市教育委員会は、いじめの報告を受けた場合、重大事態として対応するかどうかを協議・判断する。

※「重大事態である」と判断した場合、以下のように対処する。

(2) 太田市教育委員会は、重大事態が発生した旨を市長に報告する。

(3) 太田市教育委員会は、その調査を学校の設置者である教育委員会が行う場合、教育委員会は、「太田市いじめ問題専門委員会」を調査を行う組織とし、当該重大事態に係る事実関係を明確にするために調査を行う。構成メンバーは、弁護士、精神科医、学識経験者、心理や福祉の専門家等とする。

(4) 太田市教育委員会は、重大事態が発生した場合、関係者に対して指導及び支援を行う。また、調査結果を踏まえた必要な措置を行う。状況により、「群馬県心の緊急支援チーム（CRP）」の派遣要請をする。

(5) 太田市教育委員会は、いじめを受けた児童生徒及びその保護者に対して調査により明らかになった事実関係について適切に情報を提供する。

(6) 太田市教育委員会は、市長に調査結果を報告する。

VIII 取組の評価

1 目的 いじめの早期発見、いじめの再発防止の取組について適切な評価をする。

2 取組 いじめの防止等に向けた取組の検証を行い、その改善に努める。